

書評「ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド」

柴村奈緒子 (立教大学大学院理学研究科)*

Lars Svensson 著, 村田 健訳, 尾崎清明・茂田良光監訳, 文一総合出版,
2011年10月, 343頁, 本体価格4,600円

本書は、ヨーロッパ産のスズメ目について、外部形態から性・齢を識別するための手引書である。この原書は『Identification Guide to European Passerines』という題目で、40年ほど前に初版が出版され、世界中の鳥類学者に利用されている有名な本である。日本のバンダーの方々には、『スベンソン』という名前で親しまれているので、知っている人も多いと思われる。本書はその改訂増補第4版を日本語に訳したものである。スズメ目の鳥について性・齢の識別方法がこれほど詳細に書かれた日本語の本は他にない。本書は使用指針の冒頭に、「本書はある程度の基礎知識をもった読者を対象にしている。」と書いてある。主に羽衣による違いを示す形質を扱い、個々の種を識別するための全体的な説明についてはほとんど書かれていない。したがって、一般的な鳥の図鑑のように、写真はなく、絵もほとんど載っていないので、見るだけで楽しめる本ではない。むしろ、鳥マニアに受ける本であろう。

巻頭の1から3項目に翼式、各部の計測方法、齢の識別(羽の特徴、頭骨の骨化、舌斑、および虹彩等)、性の識別(総排泄部の形、抱卵斑、および体の大きさ)の方法が詳しく書かれている。4項目は原書である第4版に書かれた対象種のうち、日本産鳥類目録第6版(2000年)に載っている112種と分布域などから将来記録されると予想される36種のスズメ目計148種について、種、齢、性の特徴を詳細に取り上げている。見てみると、スズメ、イソヒヨドリ、ツメナガセキレイなど、国内で見られる種が多く書かれている一方で、ヨーロッパウグイス、ムジホシムクドリ、ハンエリヒタキなど、初めて聞いた種も含まれていた。

新人バンダーを目指す私にとって、巻頭の各部の計測方法や性・齢の判別方法は、正確に識別する方法を理解するのに大変役に立った。計測や性・齢の識別方法の技術を習得するには、実際に自分で何度も計測したり、目で見たり、先輩バンダーのやり方を見たりする必要があるのは言うまでもないが、このような手引書があると、いっそうの理解を深めることが出来る。例えば、総排泄腔の形から性を判別する方法について、イエスズメやベニヒワなど数種について雌雄の総排泄腔の絵が描かれている。今までに野外で、雄雌のものを同時に見比べたことがなかったので違いがよくわからなかったが、絵で描かれているため理解しやすかった。また、計測方法で翼長について自然翼長、最大翼長、平圧翼長(この方法は知らなかった)の3つの方法やそれぞれの利点、欠点が書かれているので、場合によってどの方法を選ぶべきか判断する手助けとなる。また、生きている鳥を計測する際に傷つけないための注意点も書かれてある。

英語が苦手な日本人にとって、日本語版である本書は大変読みやすい。私もそうであり、英語版の第4版を人から借りて読んでみたのだが、やはり読んでいて理解するのがとても大変であった。これまでに『スベンソン』の存在は知っていたが、英語だから読むのをあきらめていた人もいたに違いない。鳥について種類だけでなく、性・齢も野外で識別出来れば、鳥の生態調査、研究などに役に立つことが多い。そこから新たな発見があるかもしれない。『スベンソン』の日本語版が出版されたことで、国内でも正確に鳥を識別できる人が増え、そこから調査、研究が発展することを期待する。